

国語科学習指導案

指導者 T 1 安藤 貴子

T 2 池元 牧子

1 日 時 平成24年11月16日(金) 第3校時(10:35～11:20)

2 学 級 第1学年2組 (男子16名 女子14名 計30名)

3 単元名 本はともだち ～本のしょうかいカードをつくろう～

教材:「ずうっと、ずっと、大すきだよ」[平成23年光村図書](ハンス＝ウイルヘルム)
他, 人と動物とのかかわりが描かれている物語

4 単元について

- 本単元は、次に示す、小学校学習指導要領国語の第1学年及び第2学年における「C読むこと」の指導事項及び言語活動例を受けて設定したものである。

(1) 指導事項

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

(2) 言語活動例

オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

本単元では、主として、物語の内容と自分の知識や経験、特に読書体験とを結び付け、思ったり考えたりしたことをまとめることができるようにするとともに、読書に親しませ、読書の楽しさを味わわせることをねらいとしている。

本教材文「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、「ぼく」が、兄弟のような存在であった飼い犬「エルフ」の死を通して成長するという物語である。この物語は、「ぼく」が「エルフ」のことを読み手に語るという設定で話が展開していることや、内容が読み手である児童にとって身近なものであることから、読み手は、「ぼく」とともに喜んだり悲しんだりしながら読み進め、自分の経験と結び付けながら感想をもつことが容易になる。このことは、読書の楽しさにもつながるものである。

以上のことから、本教材文は、本単元のねらいを達成するのに適していると考えられる。

- 本学級の児童は、毎日音読に取り組むことで、文章を読むことに慣れ、それにともなって、休憩時間や朝読書の時間においても、進んで本を読んでいる姿が多く見られるようになった。

「くじらぐも」などの文学的な文章を用いた学習では、ペープサートなどの簡単な劇を演じる活動を通して、登場人物の言動などを基に場面の様子を想像しながら読むことを学んでいる。しかし、一つ一つの言葉や文に注意しながら登場人物の気持ちをとらえ、場面の様子を想像しながら読むことのできる児童は少ない。また、物語を読んで自分の思いや考えをまとめることについては、自分の経験と結び付けて書くまでに至っていない。

- 指導に当たっては以下の点に留意したい。

- ・読む目的を明確にした上で国語の読む能力を身に付けさせるため、「本の紹介カードを作る」という言語活動を単元を通して設定する。具体的には、第一次で「本の紹介カードを作る」という学習

の見通しをもたせ、第二次では、教材文「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読んで思ったり考えたりしたことを紹介カードにまとめさせる。第三次では、第二次で身に付けた力を活用して、自分の選んだ本について思ったり考えたりしたことを紹介カードにまとめさせる。第二次と第三次で同じ学習活動を行わせることによって、本単元で目指す、物語の内容と自分の知識や経験、特に読書体験とを結び付け、思ったり考えたりしたことをまとめる力を確実に高めていきたい。なお、第三次の学習につながるよう、第二次の各時間の冒頭10分間を並行読書に充てる。

- ・全ての児童が正しく流暢に音読できるよう、教材文を繰り返し読ませる。その際、児童が意欲をもって取り組めるよう、一斉読みや一文読みなど様々な方法を授業の中に取り入れる。また、家庭学習においても、音読に取り組むよう促す。
- ・一つ一つの言葉や文に注意して読むことができるよう、「ぼく」の気持ちを発表させる際には、「～と書いてあるから」と根拠を明確にするよう指示する。
- ・物語の内容を自分の経験と結び付けて考えをもつことができるよう、吹き出しに気持ちを書くなどさせて、「ぼく」に同化させる。吹き出しに気持ちを書かせるに当たっては、その根拠となる言葉や文を書くことができる欄をワークシートに設ける。
- ・ペアで考えたことを交流する際には、交流する視点を明確にした上で、「同じだね」「似ているね」「違うね」といった一言感想を言うように指示する。こういった学習活動を積み重ねることが、第三学年及び第四学年の指導事項につながると考える。

5 単元の目標

- 本の紹介文を書くために、進んで本を読もうとする。【国語への関心・意欲・態度】
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。
【読むこと ウ】
- 物語の内容と自分の経験や知識とを結び付けて自分の思いや考えをまとめることができる。
【読むこと オ】
- 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（１）イ（ウ）】

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
言語活動例 オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。		
○ 本の紹介文を書くために、進んで本を読もうとしている。	○ 本の紹介カードを書くために、場面の様子や登場人物の行動に着目して、想像を広げながら読んでいる。（ウ） ○ 物語の心に残ったところについて、自分の知識や経験と結び付けて紹介している。（オ）	○ 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いている。

7 指導の計画と評価（全8時間扱い）

次	時	主な学習活動	評価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
一	1	- 単元の終末に, 人と動物のかかわりが描かれた本の中から心に残ったところを紹介カードにまとめ紹介するという学習の見通しをもつ。 「ずうっと, ずっと, 大すきだよ」の物語を読み, 登場人物やあらすじをつかむ。	◎	○		◎紹介カード作りに関心を持ち, 人と動物のかかわりが描かれた本を読もうとしている。 ○「ずうっと, ずっと, 大すきだよ」の登場人物やあらすじをとらえている。	観察 発言内容
二	2	※ 第三次において紹介カードを書くために, 第二次においては, 毎時間冒頭の10分間で並行読書を行う。 元気なエルフとその時の「ぼく」の気持ちについて読み取り, 場面の様子を想像しながら読む。		○		○登場人物の言動からエルフの様子と「ぼく」の気持ちについてとらえ, 場面の様子を想像している。	ワークシート 発言内容
	3	年老いたエルフとその時の「ぼく」の気持ちについて読み取り, 場面の様子を想像しながら読む。		○		○登場人物の言動からエルフの様子と「ぼく」がしてやったことについてとらえ, 場面の様子を想像している。	ワークシート 発言内容
	4	エルフの死後の「ぼく」の気持ちについて読み取り, 場面の様子を想像しながら読む。(本時)		○		○登場人物の言動からエルフの死による悲しみやそこから一歩踏み出そうとしている「ぼく」の気持ちをとらえ, 場面の様子を想像している。	ワークシート 発言内容
三	5	「ずうっと, ずっと, 大すきだよ」のお話から, 心に残ったところを見付け, 思ったり考えたりしたことを紹介カードにまとめている。		◎	○	○感想を表す言葉など, 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いている。 ◎「ずうっと, ずっと, 大すきだよ」で心に残ったところについて, 自分の知識や経験と結び付けて思ったり考えたりしたことを紹介している。	ワークシート
	6・7	これまで読んできた本の中から, 心に残ったところを見付け, 思ったり考えたりしたことを紹介カードにまとめている。		◎	○	○感想を表す言葉など, 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いている。 ◎毎時間読んできた本で心に残ったところについて, 自分の知識や経験と結び付けて紹介している。	本の紹介カードの内容
	8	お互いが作ったカードを紹介し合う。		○		○紹介カードに書かれた内容を読み合い, 感想をもっている。	観察 発言内容 振り返りカードの内容

8 本時の学習内容（本時4／8時）

（1）本時の目標

第3場面の様子について、「ぼく」の言動を基に、「ぼく」の悲しみやそこから一歩踏み出そうとしている気持ちを読み取り、想像を広げながら読むことができる。

（2）本時の観点別評価規準

エルフの死後の「ぼく」の言動を基に、エルフの死による悲しみやそこから一歩踏み出そうとしている「ぼく」の気持ちをとらえ、第3場面の様子について想像を広げながら読んでいる。

（3）本時の学習展開

	学習活動	○指導上の留意点 ●配慮を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時の学習内容を把握する。 ○単元の流れを確認した上で、並行読書を行う。(10分間) ○音読する。 ○これまでの「エルフ」と「ぼく」の関係を想起するとともに、本時の学習内容と学習の流れを確認し、めあてをつかむ。	○紹介カードを書くという目的をもって読むことができるようにするために、単元の流れを確認する。 ○並行読書させる際、教材文と同様に、人と動物のかかわりが描かれた本を取り上げて読むよう指示する。 ○物語の内容を想起させるため、p.52～p.55を音読させる。 ○「ぼく」のエルフへの強い思いやつながりを確認するために、これまでの「○○なぼく」を挿絵と合わせながら振り返らせる。 ○見通しをもって取り組むことができるようにするために、本時の学習の流れを確認する。	
	どんな「ぼく」が 出てくる ばめんか かんがえよう。		
考える	2 エルフが死んだ後の「ぼく」の気持ちを想像する。 (1) 自分の考えをまとめる。 ○p.52～p.55の言葉や文をもとに、「ぼく」の気持ちを想像し、エルフが死んだ後の「ぼく」について考える。	○「○○なぼく」にあてはまるよう、「ぼく」の言動を基に気持ちを想像させる。 ○言葉や文を基に想像することができるようにするために、理由とした部分に線を引かせる。	
	【予想される児童の反応】 「○○なぼく」（根拠とした言葉や文） ・エルフが死んでしまって悲しいぼく。 (ぼくだって、かなしくて たまらなかった) (みんな なくて、かたを だきあった。) ・死んでもエルフのことが大好きぼく。 (エルフは きに しないってわかっていたけど、ぼくは いないって いった。) ・他の動物を飼っても優しくしてあげようと思っているぼく。 (なにを かってても、まいばん、きつとって やるんだ。 「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」って。) ・さびしいけど、がんばろうと思っているぼく。 (かわりに、ぼくが、エルフの バasketを あげた。) ・エルフと気持ちがずっとつながっていると思っているぼく。 (もらっても、エルフは きに しないって わかって いたけど) (なにを かってても、まいばん、きつとって やるんだ。 「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」って。)		

